

地域構想学科の研究・教育・社会貢献活動の これまでとこれから

地域構想学科長 増 子 正

1. 地域構想学科のあゆみ

20世紀の地域社会には、グローバル化のうねりや環境問題、急激に進展する少子・高齢化などによるさまざまな問題が山積して、それまで地域社会を支えてきた様々なシステムにひずみが生じていました。例えば、地域社会が抱えている課題を解決に導くためには、中央が地方の姿までをデザインして国全体をコントロールするという中央主導型の社会システムから、地域の実情に合わせた課題解決策を模索することが求められてきました。

さまざまな地域での課題を解決に導く視点を育てるためには、社会や環境の異なる地域で暮らす人々の生活を理解するための多彩な知識と技術の習得が必要になります。

「地域構想学科」は、「地域住民みずからが地域の生活を良好な環境のもとで安心して維持し、さらにより良き生活を目指すためのプランを立案し、それを実現する活動をコーディネートする人材を育成すること」を目的として2005年に設立された学科で、今年で開設14年を迎え、すでに1,000名を超える卒業生があらゆる方面で活躍しています。

2. 地域構想学科の研究と教育

「地域構想学科」で学生諸君は、「地域」という現場で学び考え、広い視野から地域をみる姿勢を身につけます。地域の問題を深く分析する力を獲得し、地域の諸問題の背景にはさまざまな要因が複雑に連動していることを理解して、グローバルな視点をもって、より良い地域をつくる人材を育てることが学科のコンセプトです。

地域構想学科では、よりよい地域を探求するために3つの領域を学んでいます。「人と自然」領域では、人と自然の共存、環境、自然条件を活かした土地利用と災害への備え、生活文化など地域と自然の関わりを学びます。「健康と福祉」領域では、住民の健康づくり、プロスポーツと地域の結びつき、福祉政策や、高齢者に優しいまちづくりなど、地域を支える健康・福

社のあり方を学びます。「社会と産業」領域では、沿岸のまちや農村、商店街やまちの産業に目を向けて、地域の特性とそこで暮らす人々の関係について学びます。

地域構想学科の学びの特徴の一つに、「現場」での多彩なフィールドワークを設定しています。学内の講義や演習だけにとどまらず、海外地域調査実習を含め学外に出での調査活動を豊富に取り入れています。また、実際に地域で活躍している方々が講師を務める授業も多彩に組み入れていますから学生諸君は講義から得る知識と実際とを連動させて考える力を身につけることができます。

地域構想学科の教員は、みなフィールド活動の経験が豊富で、行政機関、商工会、企業、様々な地域の組織と深い繋がりをもっていますから、演習などではそれぞれのゼミが特定の地域をフィールドに調査活動や地域づくりに実際に取り組んでいて、学生諸君が主体的に「地域」に関わっています。

3. 地域構想学科と社会貢献

地域構想学科の3年生・4年生は、「地域構想学演習」のなかで、教員と学生諸君が実にさまざまな社会貢献の実績をあげていますので、その一部を紹介します。

【天野ゼミナール】

(1) スポーツイベントにおける行動調査

本学と連携をしているサッカーJリーグのベガルタ仙台や、多賀城市に本拠を置くソニー仙台FCの試合観戦に来られる地域住民を対象に、観戦動機や物販の購買行動などについて質問紙を用いて調査を行い、主催する組織と学生のやりとりを通じて、イベントの活性化を図っている。

【岩動ゼミナール】

(1) 「岩手県奥州市における中心市街地活性化への提言」

岩手県奥州市の中心市街地活性化事業に参加し、現地調査で得られた調査結果からフリーマーケットの実施や中心街での地域資源の活用を提言し、市の都市計画に貢献した。

(2) 「秋田県大仙市における花火のまちの地域おこし事業への参加」

秋田県大仙市の余目地区と角間川地区の地域資源を活用した地域おこし事業に毎年参加し、地産地消事業の実践、シンポジウムでの勉強会や研究発表会を通して地元住民との交流を続け、両地区住民から好評を得ている。

【大澤ゼミナール】

(1) 仙台YMCAとの連携・協力「子供たちの健全育成への支援活動」

仙台YMCA「ジュニアクラブ・ウェルネスクラブ」(水泳, サッカー, 体操, 野外活動等)の活動を通し, 子供たちへの健全育成への活動を行っている。

(2) 仙台YMCA「放課後等デイサービスみらい」における支援活動

放課後や長期休業中, 小集団活動, 創作活動, レクリエーション, 外出活動等を通し, 子供たちに安心できる居場所, 遊び場所, 仲間作り, 地域交流などの機会を提供する活動を行っている。

【金菱ゼミナール】

(1) 東北学院大学震災の記録プロジェクト編『3.11 慟哭の記録』(新曜社)の出版。

東北学院大学は創立100年を超える歴史があり, 学生数も多いだけに, 東北各地に卒業生がいる。とくに被害が大きかった気仙沼市では, 震災前から同窓会の力を地域の発展に生かそうと積極的に活動していた。同窓生は, ゼミ生たちを温かく迎え, 適任者を紹介してくれたり, 被害や復興の経過を分かりやすく教えてくれたりした。2012年2月, 私たちは, 集まった手記をまとめたものである。地域に根差した私立大学の歴史と同窓生の地に足がついたネットワークがいかに発揮された形である。

(2) 東北学院大学震災の記録プロジェクト編『呼び覚まされた霊性の震災学』(新曜社)出版。2016年, 音楽や文学, 宗教界など, さまざまな分野から反響があったタクシードライバーによる幽霊現象との邂逅を収録したもので震災を生者と死者の関係から読み解いたものである。続編が2018年に発刊された金菱ゼミナール・東北学院大学震災の記録プロジェクト編『霊性に抱かれて—魂と命の生かさされ方』(新曜社)である。

【菅原ゼミナール】

(1) 「泉区本田町における介護予防運動自主グループの活動支援」

泉区本田町における介護予防運動自主グループ「ぬくもり会」の運営をサポートし, ストレッチや軽運動を定期的実施している。この活動は泉区内の他のグループにも広がっている。

(2) 「特別養護老人ホーム「松陽苑」におけるインドネシア人介護福祉士候補者に対する日本語学習支援」

特別養護老人ホーム「松陽苑」において経済連携協定にもとづいて来日しているインドネシア人介護福祉士候補者を対象として日本語学習支援をおこなっている。

【高橋ゼミナール】

(1) 運動教室 U-ch

仙台市泉区をフィールドで中高齢者を対象とした運動教室を2007年から2017年まで継続した。住民の意識調査から教室の企画、開催、継続を大学生が主体となって行った活動であり、新聞、ラジオ、雑誌などでも取り上げられた。また、運動教室の成果の一部は3編の学術論文として報告されている。

(2) 仙台市体育施設の利用者意識調査

仙台市の主要な体育施設を管理する仙台市スポーツ振興事業団と連携し、2015年から2017年まで施設運営の改善に必要な情報の調査を行った。

調査の計画、実施および分析・報告は実習（健康と福祉発展実習）として行い、仙台市のスポーツ行政の一部に貢献した。

【高野ゼミナール】

(1) 「福島県山舟生の地域づくり支援」

福島県の大学生地域支援事業に採択され、宮城県境の山村・山舟生で2年間にわたり実地調査を通して、地域づくりに役立つ宝を見出し、提言を行なっている。

【平吹ゼミナール】

(1) テーマ＝里山・中山間地域の持続に向けた自然環境の評価と利活用活動の実践（岩手県一関市萩荘芦ノ口地区）

地区内に存在する植物種や植生を生態学的に調査するとともに、伝統的な生活文化（四季に順応した衣食住や農耕、祭礼）とのかかわりを見える化し、学習会等での調査・実践結果の発表や体験活動の企画・実践を行い、地域活性化を支援してきた。

(2) 宮城県の仙台市宮城野区新浜地区（主体は新浜町内会）や亘理町海岸域（主体はわたりグリーンベルトプロジェクト）

東北地方太平洋沖地震・津波後の海岸域における野生動植物の再生状況や植栽した海岸植物・樹木苗の生育状況の調査・発表、あるいは住民主体の地域資源の掘り起こし・利活用活動や環境保全・緑化活動へのスタッフとしての参画などにより、「地域資源の発掘・見える化」と「地域に根ざした復興まちづくり」を支援してきた。

【増子ゼミナール】

(1) 「青森県鱒ヶ沢町の安否確認を兼ねた買い物支援」

鯺ヶ沢町役場との連携で、3年をかけて学生たちが提案してきた買い物弱者対策が実現して、買い物バスの運行に繋がっている。

(2) 「仙台市泉区加茂団地の、高齢者の安否確認システム」

加茂まちづくり協議会と協働で、高齢者が安心して住み続けられることを目指して、安否確認のための仕組みづくりの勉強会を定期的に持ち、実際の安否確認活動に結びついている。

【松原ゼミナール】

(1) HALF (Healthy and Active Life Forever)

活動2015年より仙台市泉区加茂地区で、高齢者の日常生活を活動的にすることで健康や体力の維持をはかるため、活動量計を身につけることにより、身体を動かすことの動機づけを行なっている。

(2) 仙台市中体連特別支援卓球大会サポート

毎年6月末に開催される仙台市中学校特別支援卓球大会の大会運営サポートを2年発展実習履修学生、3年ゼミ生とともに行っている。

【松本ゼミナール】

(1) 「仙台平野を襲った弥生時代の巨大津波の検出」

今から約2,000年前に仙台平野に巨大津波が襲来していたことを、平野表層部を構成する堆積物をもとに明らかにした。当該堆積物は地表から30~50cmの深度にあり、層厚は2~3cmで仙台平野の広範囲に見いだされ、遡上距離は2.5kmを大きく越える巨大津波であることが検証された。この研究は2006~2007年に実施され、その成果は2007年7月に朝日、読売新聞ほか報道各社によって紹介された。

(2) 「北上川中流部、平泉地区の低地に残された河川氾濫跡の研究」

岩手県平泉から一関にかけて広がる北上川氾濫原において、河川氾濫および河道変遷の痕跡を数多く見いだした。ボーリング調査と放射性炭素年代測定により氾濫の時期を明らかにするなど、地形学的側面から平泉の世界文化遺産登録の一部を担った。

【和田ゼミナール】

(1) 栗原市ジオパーク観光関連調査

ジオパーク観光に関わる施設や提供されているサービス、旅行商品などについて調査を行い、その結果をフィードバックし改善につなげる取組を行っている。

(2) 栗原市観光経営組織の展開に関する調査検討

栗原市における DMO 設置に関連して、事業者などからヒアリングを行い、実施体制の検討を行っている。

4. 地域構想学科のこれからの展開

地域構想学科では、3つの専門分野を研究する研究陣が相互に連携して、地域課題の解決に向けた新しい地域生活のシステムを構想し、学生諸君とともに「地域社会」に積極的に関わり、社会に貢献することを学科のミッションにしています。地域生活や地域社会に実践的にアプローチして、進展する高齢社会へのチャレンジ、災害列島日本への防災・減災へのチャレンジ、まち興しへのチャレンジを学生と教職員が一体となって取り組む新しい社会システムを模索し続けます。